

第1回 台風21号の被害に関する説明会 会議要旨

日 時：平成29年10月30日（月）19：10～21：23

会 場：寺尾小学校 体育館

市出席者：川合市長、栗原副市長、板東副市長、新保教育長、福田上下水道事業管理者
田中広報監、大河内危機管理監、細田市民部長、関根福祉部長、
松田保健医療部長、大野環境部長、宮本建設部長、石井上下水道局長、
中沢教育総務部長、福島学校教育部長、根岸高階市民センター所長、
市ノ川防災危機管理室長、間仁田広報室長、堀広聴課長

開会（司会）：市民部長

あいさつ概要：市 長

災害発生後の対応等に遅れをとり、御迷惑をおかけしたことを心からお詫びします。また御協力をいただいております自治会の方、民生委員の方々に対しまして心から感謝いたします。

本日は、経過の概要を報告させていただき、皆様方からの御質問を受けることを中心に進めていきますのでよろしくお願い申し上げます。

出席者紹介

台風21号の被害に関する経緯を説明：危機管理監

- ・人的被害はありません。
- ・家の被害は、床上浸水が市内で235件、寺尾地内では230件ございました。
- ・床下浸水につきましては、市内で294件、寺尾地内では214件ございました。

市の活動

- ・ 10月22日7時に防災の職員が監視の態勢をとりました。
- ・ 同日15時に監視体制を発令。16時30分には特別監視班が出動しました。
- ・ 同日21時に警戒体制第1配備を発令し、21時30分に現地調査班が出動しました。
- ・ 23日17時に体制を解除しました。
- ・ 仙波小学校は寺尾地区の方が避難されていたので、24日まで避難所を開設しました。
- ・ 寺尾地区の排水対策として、国土交通省の支援を要請し、排水ポンプ車の出動を依頼しました。
- ・ 現地調査班が排水ポンプを稼働し、排水作業をしました。
- ・ ポンプの状況として、22日未明にポンプの稼働は確認をしていました。
- ・ 同じく未明に新河岸川の水位が上昇し、江川排水路から新河岸川に排水させる樋門を開けたままにすると新河岸川の水が逆流してしまうため、その樋門を閉じました。その後、寺尾地内の雨水をポンプで排水している状況でした。
- ・ 新河岸川の水位がなかなか下がらず、ゲートが開けられない状態が続いたため排水ができず、江川の水位が上昇しました。

質問の概要

Q1 ポンプはなぜ動かなかったのか。

A1 (上下水道局長)

朝方の6時20分ごろまではあのポンプが稼働していたことを確認しています。

ポンプそのものは6時過ぎまで動いており、その後、電気の受電盤の設備が冠水してしまったためにポンプが停止しました。

Q2 ポンプは何のために設置したのか。

A2 (上下水道局長)

寺尾地区約10ヘクタールの内水を排水するために設置しているもので、雨水を江川の都市下水道に排水するためのものです。

Q 3 新河岸川の水門のところにポンプをつけて流せばよかったのではないか。

A 3 (建設部長)

新河岸川の水位が上がらないような協議も、江川のポンプの対策も今後の課題だと思っています。現段階ではそこがついてないというところで被害が発生してしまい、申し訳ありません。

意見のみ

ぜひとも今後の対策の中に寺尾地区を水害から守るという強い姿勢をとってほしい。

Q 4 23日月曜日、朝までの24時間の総雨量を把握していたか。

A 4 (危機管理監)

川越市役所で1時間の最大雨量が38ミリで累計219.5ミリ、牛子小学校は最大雨量が34ミリで累計256.5ミリ、福原地区は最大雨量が38.5ミリで累計260.5ミリでした。寺尾地区には観測点はありません。

Q 5 いつ、どの段階で被害状況を把握したのか。なぜ、寺尾地区に避難情報を出さなかったのか。

A 5 (危機管理監)

22日、22時20分に避難準備・高齢者等避難開始発令という避難開始情報を発令しましたが、これは市内の小畔川、九十川の水位が避難判断水位に迫っていたためです。河川が氾濫すると多くの被害が発生することから、水位が上がる前に早めに避難をしていただくものです。

内水による避難というのは通常はなかなか考えにくいものです。しかしながら、台風22号の際は21号の影響が残っていたため、29日19時の段階で避難準備・高齢者等避難開始の発令をしました。

Q 6 ポンプがきちんと稼働していなかったから雨水がたまり、内水となった。どんな状況だったのか。

A 6 (上下水道局長)

23日4時59分に自動監視装置からの監視ができなくなりましたが、同日5時43分、ポンプが動いていることを確認しています。その後、内水の上昇により同日6時20分、電気の受電盤の設備が冠水したため、全てのポンプが停止したことを市の職員が確認しました。

Q 7 ポンプの停止を確認して、なぜ警戒をとらなかったのか。

A 7 (上下水道局長)

定期的に巡視もしており、午前1時頃には職員が回っていました。

Q 8 不手際はなかったのか。

A 8 (上下水道局長)

6時20分まではポンプが動いていましたが、それ以上に内水の上昇が早かったものです。

A 8 (建設部長)

平成10年の集中豪雨のときに新河岸川を広くしたため、新河岸川の水位が上がるのが遅くなりました。昨年も台風のときに8mを超えるような時間が8時間続いておりましたが、今回は14時間続いた状況で、大変想定外の事態となりました。

ゲートを閉めたことで新河岸川が逆流しないように効果は出ておりましたが、途中からは内水が想定を超えて集まったため、内水の浸水被害が発生してしまったと思われまます。

Q 9 新河岸川の水位はどこまで上がったのか。

A 9 (建設部長)

台風21号の時は水位が9.2m以上に上がっていました。

Q 1 0 昨年8月、台風9号による浸水被害にあっているが、それからの対策、改善点を教えてほしい。

A 1 0 (建設部長)

新河岸川上流の溢水地点については県とも協議をして対策をしましたが、内水対策については十分な対策がされていませんでした。

Q 1 1 ならば、内水が出るところが予想できていたのではないか。把握していたのか。

A 1 1 (危機管理監)

これほどまでに内水が増えるという状況は予見できませんでした。今回の台風は時間雨量としては高い雨量ではありませんが、その前に2週間ほどかなり雨が降っている時期があったところが違いました。

A 1 1 (建設部長)

現状、具体的な対策はありませんでした。

Q 1 2 江川から新河岸川に排水することによって、寺尾地区の水位が上がらなかったということでしょうか。

A 1 2 (建設部長)

その通りです。

Q 1 3 江川から新河岸川へ排水されなくなる状況となったならば、雨水がたまることは十分に予見できたのではないか。

A 1 3 (建設部長)

その通りで、逆流を防ぐために閉めましたが、内水は上がるということになります。

Q 1 4 雨水がたまってくる状態が予見できたにもかかわらず、市から何の警告もなく、避難勧告もない状態がなぜ起こったのか。

A 1 4 (危機管理監)

新河岸川の水位が下がればゲートが上がり、排水が開始される為、内水と外水の水位を計測して経過を観察していました。

内水で水位が上がった場合、避難によりかえって危険な状態を招くため、屋内の高いところに避難していただくのが安全対策となります。

Q 1 5 22日の日曜日に志木市、朝霞市、ふじみ野市、富士見市、三芳町、全て災害対策本部が設置されている。なぜ、川越市では設置されなかったのか。

A 1 5 (危機管理監)

河川の水位の上昇などを見て対処していたためです。

Q 1 6 溢れることがわかっていてゲートを閉めたのであれば、計画もおかしいし、人災なのは。

A 1 6 (建設部長)

河川に排水するため、ポンプを設置している箇所はあります。江川については排水する先の新河岸川の改修がかなり進んで水位が下がったため、(内水の)水位が上がる機会が少なかったことから、浸水現場で何とか対処していたところですが、ポンプについては不十分であったと考えています。

Q 1 7 新河岸川の計画高水位に対して、はけないポンプ場を作っているのか。

A 1 7 (建設部長)

江川の水をはけるような施設を作る必要性はあると思います。

Q 1 8 寺尾調節池が氾濫したと聞いたが、どうなのか。

A 1 8 (建設部長)

寺尾調節池は新河岸川が氾濫しないようにするための調節池であり、新河岸川同様に県で管理しているもので、台風の際にはほぼ新河岸川と同じ水位まで上がっておりますが、氾濫はしていません。

Q 1 9 下水道もあふれていたが、その対策はどうなのか。

A 1 9 (上下水道局長)

マンホールからあふれているという話については把握をしています。少しずつ改善する方向で現状を把握しながら作業を進めてまいります。

Q 2 0 北江川は川越市、ふじみ野市の対策に乗って直されなければならないところだと思うが。

A 2 0 (建設部長)

江川につきましては、川越市とふじみ野市の両方に流域を持っておりますので、ふじみ野市とも相談しながら復旧をしているところです。

Q 2 1 わかった段階でなぜ冠水した状態を知らせてもらえなかったのか。

A 2 1 (危機管理監)

市内各所から冠水などの連絡が入っている状況があったこと、また、昨年8月の台風第9号の際に避難勧告を発令した河川が、その時と同じように避難勧告を呼びかける必要が出るか、出ないかというように水位が上昇していた時間帯でした。また、寺尾地区からも情報は入っていたのですが、多方面から同様の情報が寄せられておりました。

早くにとという点では、水位の上昇が早く、皆さんにお知らせすることができなかったということです。

Q 2 2 排水ポンプの設置場所について、冠水するところに作っても意味がないのではないか。

A 2 2 (上下水道局長)

通常運転が可能で、通常機能を満たしていれば、水が集まってくる低いところに作るというのが一番効果的だと思っています。

Q 2 3 この問題に対して、市では人災と捉えているのか、天災と捉えているのか。

A 2 3 (危機管理監)

総合的にいろいろと検証して判断しないと、現段階では何とも申し上げられません。

Q 2 4 あの遊水池は何のために作ったのか、もう一度詳しく、わかりやすく説明してほしい。

A 2 4 (建設部長)

寺尾調節池は平成10年の台風の際に、河川の激甚災害特別事業ということで作ったもので、新河岸川を管理している県の事業として行ったものでございますが、新河岸川の河川を治めるために実施した事業の一つです。

当時は今の河川の幅が半分くらいで、水位がすぐに上がるような状況がございました。そのため、新河岸川の河川幅を2倍にするとともに、水位が上がった時には氾濫しないように寺尾調節池に水を出水し、ピークをカットし新河岸川の水位を保つことで被害を防ぐ機能がありますが、寺尾地区に降った雨が寺尾調節池に入るような機能にはなっていません。

Q 2 5 水門が閉まったのは何時か。

A 2 5 (建設部長)

23日午前1時16分です。

Q 2 6 水門が閉まったところへポンプで6時まで排水していたのか。

A 2 6 (市長)

この地域に作られているポンプは、全て内水を江川へ送り込むためのポンプです。水門が閉まってもポンプは稼働しておりますので、行き場がなくなった水が内水としてたまったということです。

水門が閉まったというのは、寺尾調節池を作って以来、初めてのことで、今までなぜ閉まらなかったのか、例えば閉まった場合になぜここまで水が集まってきてしまったのか等については、これから検証をしなければならないと考えています。

根本的な解決としては、内水を新河岸川ないしは調節池に排水するためのポンプをつけることですので、先週の金曜日に県知事に対して御協力をいただきたい旨、要請をしてきたところです。

Q 2 7 下流に新河岸川放水路があって、荒川へ放水しているはずだが、そこのリンクはどうなっているのか。

A 2 7 (建設部長)

新河岸川から荒川への放水路は、県の話ですがポンプ場は十分に働いていたということです。放水路へ流せる量を増やせるように協議していきたいと考えています。

Q 2 8 台風 2 1 号への対策は最善だと思うのか。

A 2 8 (危機管理監)

最善であったとは決して思っておりません。これほどの大きな被害がでるということが本当に予見できませんでした。

Q 2 9 いつお金をくれるのか。

A 2 9 (市長)

見舞金、あるいはお金の件について、見舞金は 5 万円、それ以外のお金については、検討はしておりますが、今のところ何とも申し上げられません。

Q 3 0 天災なのか、人災なのか、どちらか。

A 3 0 (市長)

人災であるのか、不可抗力、天災であるのか、判断には時間を要します。

Q 3 1 あふれた時点でポンプ車をなぜ出さなかったのか。

A 3 1 (建設部長)

国土交通省のポンプ車が実際来たのは、昼から夕方にかけてでした。内水用に可搬式のポンプはかけていましたが、対応が遅くなったというところは否めないと思います。

Q 3 2 対応が遅いから人災である。

A 3 2 (危機管理監)

初期の段階では、状況の把握が十分にできなくて、十分な対応が取れなかったと考えています。

Q 3 3 大型台風だと何度もニュースでやっていたのに、なぜ手を打たなかったのか。

A 3 3 (危機管理監)

大型台風であったことは承知していましたが、市内の各所に被害が発生する恐れがあったため、市内すべてのところを監視していた現状がありました。

Q 3 4 寺尾は毎回水が出る、なぜ寺尾にいなかったのか。端っこはどうでもいいのか。

A 3 4 (危機管理監)

このように大規模な、大量の内水が流れ込んでくるということは、今までの台風からは予測できませんでした。

Q 3 5 40年寺尾に住んでいるが、このような台風はこれまで何度もあったが床上まで水が来たことはない。

A 3 5 (危機管理監)

新河岸川沿いの地域の水を排水し、新河岸川へ流す能力がずっとありましたが、今回の台風については、その効果がなかったという状況があったのではないかと考えています。

Q 3 6 川越市が判断ミスをしたのかどうかをまず知りたい。

A 3 6 (市長)

川越市のミスであるかどうかという点を判断するにはしばらく時間がかかります。

Q 3 7 いつまでに判断するのか。

A 3 7 (市長)

防災に関する専門家も入れて検討をする必要があると考えているため、できる限り早くと申し上げたいと思います。

Q 3 8 調節池と新河岸川は越水したのか。

A 3 8 (建設部長)

越水はしていませんが、市街地側よりは高い水位となりました。

Q 3 9 将来想定されるかもしれない新河岸川の越水をおそれて、寺尾地区の冠水を許容したという認識でよいか。

A 3 9 (建設部長)

そうではないです。ゲートが閉まった際の内水の対策については不十分であったと考えています。

Q 4 0 水門建設の際に内水対策は策定していたのか。

A 4 0 (建設部長)

新河岸川を改修した段階では、新河岸川の水位が高い状態にならなければ流せるということで計画された水路と認識しています。

Q 4 1 内水に関しては、対策を講じないというのが計画段階の話であったということか。

A 4 1 (建設部長)

下水道の事業認可の際には、ポンプ設置の計画ではありませんでしたが、今後、検討していきたいと考えています。

Q 4 2 水門を閉めた後に内水がたまるというのは、計画段階で想定していなかったのか。

A 4 2 (建設部長)

効率よく排水をして内水対策をすること、また、ゲートが閉まった場合でも一般的には短時間で開けられるような状況が想定されるため、全ての水門にポンプがついているわけではありませんが、今回は内水対策が必要であるとはっきりしたため検討しなければならないと認識しています。

Q 4 3 23日の1時以降、江川のたまっていく水を排水する努力はしたのか。

A 4 3 (危機管理監)

市のポンプは4台持ってきて、最大3台を動かしていました。

Q 4 4 水門を閉めた1時からポンプで寺尾地区の内水の排水を始めた時間のタイムラグを教えてください。

A 4 4 (危機管理監)

現地調査班というものがあり、最初から来ているわけではありません。

Q 4 5 夜中の1時でたまるのはわかっていましたよね。

A 4 5 (危機管理監)

現地に赴いている職員が現地対応等をしていたため、排水を開始したのは23日14時頃です。

Q 4 6 生活再建支援法の手続きについて、進捗状況を教えてください。

A 4 6 (市長)

まだ行っていません、できるだけ早く行いたいと思います。

Q 4 7 かなり水が出ているという認識がされていてよかったと思うが、なんで警報一つ鳴らすことができなかったのか。

A 4 7 (危機管理監)

内水の上がり具合があまりにも早く、対応が不十分であったということは認識しています。

Q 4 8 23日午前2時の段階で警報を出していれば、間に合う家庭もいっぱいあったと思う。なぜ、出なかったのか。

A 4 8 (危機管理監)

雨のピークで市内各所を監視し、河川によっては避難勧告を発しなければならぬような状況で、情報の集約と分析に時間がかかってしまい、水位の情報を早く予見することができなかったためです。

Q 4 9 簡単に言えば、寺尾地区は後回しだったということですか。

A 4 9 (危機管理監)

決してそうではありません。ただ、このような水害が発生することは予見できていなかったためです。

Q 5 0 予見できなくても現場を見ればわかったのになぜできなかったのか。

A 5 0 (危機管理監)

結果的にそういうことができなかったために、台風22号では避難準備情報の発令をしました。

Q 5 1 毎日新聞の取材に危機管理監はどのように答えたか記憶にあるか。

A 5 1 (危機管理監)

大勢の記者に対して話しているため、どの記者に答えたという記憶はありません。

Q 5 2 記事に早朝からの選挙事務で職員が大変だったという説明がありました。

A 5 2 (危機管理監)

防災危機管理室の職員が投票事務から夜通しで災害対応にあたっていることに対して申し上げたものでした。

Q 5 3 説明会に参加された方、できなかった方にこの場で話したことをどのように発信するのか。

A 5 3 (危機管理監)

何らかの形で皆さんにわかるようにしたいと考えています。

Q 5 4 第2回目の説明会はいつ開催されるのか。

A 5 4 (市民部長)

2週間以内には開催いたします。